

月刊

スクール・オブ・インターネット

SOI

## インターネットで学べる学校

# 通信

WIDE大学 スクール・オブ・インターネットは「インターネット上の大学」です。

このコーナーでは毎月SOIプロジェクトのトピックスをご紹介します。

last

\* WIDE 大学 \*

<http://www.sfc.wide.ad.jp/soi/>

## インターネットを使った コラボレーションが活きる 授業

電子メールや掲示板を活用

今後は外部との連携も

インターネット電話（リアルタイムアプリケーション）の制作をテーマに98年9月にスタートした講座「情報処理IIn」が、実際のプログラム制作に入りました。慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)内のネットワークと電話網を利用してネットワークアプリケーションを作るという課題が出されており、学生は5~6人一組でグループを作り、一生懸命取り組んでいます。98年最後の授業では各グループが開発のポイントや進捗状況を発表しました。その発表の様様もリアルビデオで公開されています。

各メンバーはそれぞれの得意分野を分担してプログラミングにあたっています。途中に大学の冬期休暇がはさまったのですが、その間にも開発は続けられました。電子メールやWWW掲示板などを利用して連絡を取り合い、ディスカッションを続けていたのです。こうして1月末にはミニプロジェクトの研究成果が発表されることになっています。

今回のミニプロジェクト学習の参加者はSFCの学生だけになりました。今後SOIプロジェクトの受講者が増えれば、それに合わせてもっと幅広い意見が集まるでしょう。また先の例のように電子メールや掲示板、ネットワーク会議アプリケーションなどのさまざまなインターネット上のツールを活用していけば、世界のどこにいても共同作業ができるのではないのでしょうか。

現状では「まず様子を見てみよう」という聴講の受講者が多いかもしれませんが、しかしインターネットをもっと活用すれば、大学のキャンパスに通う学生と同じようにプロジェクトに参加することができるのです。そのためには快適な回線容量や環境の確保といったことも重要になってくるのかもしれません。

SOIプロジェクトは「スクール・オブ・インターネット」つまりインターネット学科を作るために、さまざまな技術や環境整備の研究を続けていく予定です。



研究成果の発表もリアルビデオで公開される



掲示板などを活用して共同研究が進められている

# Interview

WIDEプロジェクト ボードメンバー SOIプロジェクト リーダー  
 大川 恵子さん

Q : SOIプロジェクト開始から1年半ですが、98年度はどんな収穫がありましたか。

大川: 多くの受講者からコメントをいただき、これからの方向性が見えてきたこと、そしてSOIのメソッドによる受講が有効であるのがわかってきたことですね。今年度は特に社会人の参加が多かったのですが、こうした機会に対するニーズが高いことを実感しました。単位や受講証明の発行など、何らかの資格に結びついた形を希望する受講生が多いこともわかりました。そこで、まず2~3月には電子認証を使った学生証や教員証の発行と、それ



1つの授業を世界中で共有することが大切

を基にしたセキュアなコミュニケーション手段を提供する予定です。

また、すでに専門として仕事についている方からかなりつっこんだ質問がくるなど、さまざまなレベルの人が利用していることがわかってきたので、99年度には受講者のレベルにあったナビゲーションができるような仕組みを検討しています。

Q : 情報技術系以外の授業を望む声も増えているようですね。

大川: 99年度は複数の大学にSOIサイトを設置する計画があります。それにもなると、各大学の得意とする分野で授業を公開して交換できるように検討中です。また技術系以外の授業も収録公開できるように、ホワイトボードやスライドを使う授業などにも対応する準備を始めました。

Q : ウェブを活用した「インターネットを使った教育」に焦点を当てたプログラムを開始した大学や企業が増えてきました。こうした動きについてどうお考えですか。

大川: インターネット上で学ぶ機会が増えることは、大変すばらしい動きだと思います。



大川恵子さん

今後はそれらが相互に協調できるような基盤を考えていきたいと思っています。

Q : 98年はEEE1394によるインターネット生中継などに挑戦しましたが、99年度も新しいことにチャレンジされるのでしょうか。

大川: アーカイブ系と並行して、高速ネットワークを利用してリアルタイムに受講する実験も進めていきたいと思っています。特にアーカイブによる授業を前提とした場合に、リアルタイムに受講する授業の価値を分析し、それを十分にインターネット上でも享受できるような環境とは何かを追及していきたいです。

## SOIは受講者を募集しています!

98年7月号からスタートしたこの「SOI通信」も、今回が最終回になりました。しかしSOIプロジェクトには終わりはありません。98年度の講座は終了しますが、99年度もまた新しい大学の新しい講座が加わってますます充実していく予定です。

SOIの受講に必要なものは、インターネットが利用できる環境と、「学びたい」という意欲だけ。現在のところ、SOIのホームページで入学手続きを行うだけで、すべての講

座を無料で受講できます。つまり、自分の好きな時間に、好きなところで勉強できるのです。

授業以外にもインターネットの第一人者の講師による特別講演などが数多く開催されており、さらにインターネットへの理解を深めたいと考えている人の役に立ちたいです。

SOIではいつでも受講生を募集しています。ぜひあなたも参加してください!



入学手続きや履修登録などの詳細については、SOIプロジェクトのサイトをご覧ください!

URL <http://www.sfc.wide.ad.jp/soi/>



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)